

南信発電管理事務所

長野県南部の伊那谷・木曾谷にある18発電所と、高遠ダムを管理しています。
 18発電所の合計最大出力は80,906kW、年間発電量は2億1千万kWhで、これは一般家庭の約5万9千世帯分に相当します。
 発電所はすべて無人で、長野市にある中央制御所（企業局川中島庁舎）から監視制御を行っています。



南信発電管理事務所(南信制御所)



美和ダム、美和発電所

美和発電所

大規模改修工事中(R6.8~1台稼働予)

三峰川総合開発事業（治水、かんがい、発電）の一環として、美和ダムの建設にあわせてダムの直下に建設した県営最初の発電所です。
 発電した水は、高遠ダム（高遠湖）に一旦蓄え、かんがいと発電（春近・高遠発電所）に使います。
 令和4年2月、64年の運転を一旦終え、令和6年8月からの運転再開に向け、大規模改修を行っています。

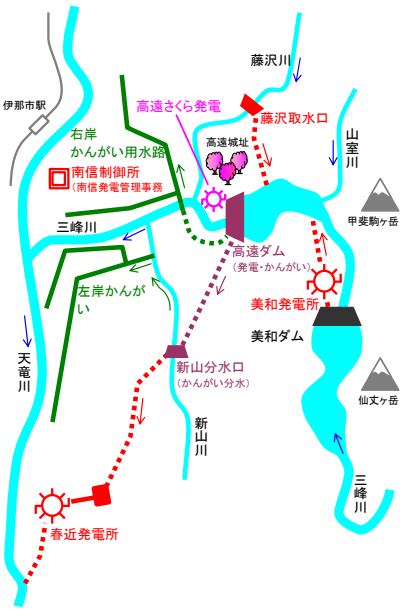


春近発電所

春近発電所

大規模改修工事中

三峰川総合開発事業の一環として建設しました。
 高遠ダムからトンネルで約10.6km導水して、約150mの落差を得て発電します。
 高遠ダムと、新山分水口までの導水トンネルは、かんがいとの共同施設です。
 令和4年11月に発電を止め大規模改修を行い、令和7年4月から運転再開の予定です。



高遠ダム

ゲート改修工事中

美和発電所で発電した水を、三峰川左右岸のかんがいと春近・高遠発電所で有効に利用するため、一時的に溜めて調整します。
 また、発電用に藤沢川からも取水しています。
 3門ある洪水吐ゲートを、令和4年度から、順次更新予定です。



高遠ダム、高遠さくら発電所

高遠さくら発電所

「天下第一」と称される高遠の桜にちなんで、愛称を「高遠さくら発電所」としました。
 高遠ダムからの維持放流水を利用し、一般家庭約350世帯分の電気を発電します。自然を生かした信州発エネルギーとして、東京世田谷区の保育園などで利用されています。

発電所	美和	春近	西天竜	与田切	奥木曾
所在地	伊那市(高遠町)	伊那市	伊那市	上伊那郡飯島町	木曾郡木祖村
運転開始	R6.8~(1台稼働予定)	R7.4~(稼働予定)	H34.2.1	S61.4.1	H6.6.1
形式	ダム式	ダム水路式	水路式	水路式	ダム式
最大出力	13,000 kW (予定)	25,300 kW (予定)	3,200kW	6,300 kW	5,050 kW
年間発電電力量	47,500 千kWh (予定)	108,000 千kWh (予定)	16,000千kWh	21,803 千kWh	18,911 千kWh
最大使用水量	25.6 m ³ /s	19.0 m ³ /s	5.56 m ³ /s	2.4 m ³ /s	4.7 m ³ /s
最大有効落差	59.01 m (予定)	151.37 m (予定)	63.95 m	321.32 m	125.12 m
発電機数	2台	2台	2台	1台	1台
水車型式	立軸フランシス	立軸フランシス	横軸フランシス	横軸単輪二射ペルトン	横軸二輪両射フランシス
関連事業	三峰川総合開発事業 (治水・かんがい・発電)	三峰川総合開発事業 (かんがい・発電)	西天竜幹線水路改修事業 (かんがい・発電)	— (発電)	木曾川水系水源開発基本計画 (治水・上水道・工業用水・発電)



小渋ダム、小渋第1・第3発電所

小渋第1発電所

小渋川総合開発事業（治水、かんがい、発電）の一環として建設した発電所で、発電に使った水は小渋第2発電所へ導水するとともに、小渋川土地改良区のかんがい用水に分水します。県営では唯一のカプラン水車です。



小渋第2発電所

小渋第2発電所

小渋川総合開発事業の一環として建設しました。小渋第1発電所から約4.4kmをトンネル（かんがいと発電の共同施設）で導水し、かんがい用水を分水した後、発電を行います。令和3年4月から小渋第2発電所の冷却水を活用した小渋えんまん発電所が運転開始しました。



四徳発電所

四徳発電所

小渋ダム水没地の移転先農地かんがいのため、取水施設をかんがいと発電の共同施設とする総合開発事業として、発電所を建設しました。四徳川から取水し、約2.6kmをトンネルで導水し、かんがい用水を分水した後、発電します。



西天竜発電所

西天竜発電所

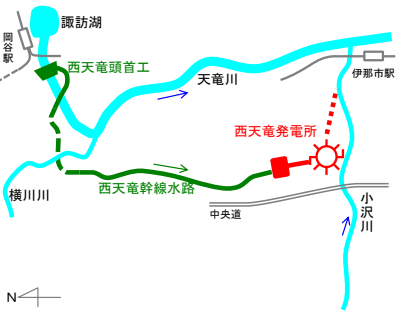
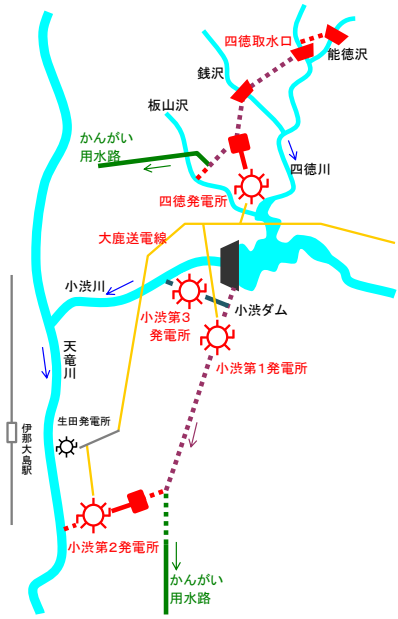
R4. 2運転開始(外構工事中)

かんがい用の西天竜幹線水路の末端に建設したもので、主に非かんがい期に発電します。西天竜幹線水路は、西天竜土地改良区が所有する25kmの水路で、辰野町から伊那市までの天竜川西岸の台地をかんがいでいます。令和4年2月から運転を再開しました。

小渋第3発電所

大規模改修工事

国土交通省の小渋ダム水環境改善事業の一環として、小渋ダムから放流される河川維持流量を有効利用した発電所です。県営では唯一のクロスフロー水車です。令和5年1月に発電機を止め大規模改修を行い、令和5年11月から運転再開の予定です。



小渋第1	小渋第2	小渋第3	四徳	大鹿	大鹿第2
下伊那郡松川町	下伊那郡松川町	下伊那郡松川町	上伊那郡中川村	下伊那郡大鹿村	下伊那郡大鹿村
S44.3.1	S44.3.1	H12.4.1	S39.2.7	H2.5.1	H11.4.1
ダム式	ダム水路式	ダム式	水路式	水路式	水路式
3,000 kW	7,000 kW	550 kW	1,800 kW	10,000 kW	5,000 kW
5,671 千kWh	19,352 千kWh	1,859 千kWh	4,202 千kWh	39,792 千kWh	18,849 千kWh
8.0 m ³ /s	8.0 m ³ /s	0.88 m ³ /s	1.37 m ³ /s	4.5 m ³ /s	1.7 m ³ /s
46.1 m	99.9 m	83.41 m	165.0 m	266.4 m	356.22 m
1台	1台	1台	1台	1台	1台
立軸カプラン	立軸フランシス	横軸クロスフロー	横軸フランシス	立軸単輪四射ベルトン	横軸単輪二射ベルトン
小渋川総合開発事業 (治水・かんがい・発電)	小渋川総合開発事業 (かんがい・発電)	小渋ダム水環境改善事業 (維持流量・発電)	南向土地改良事業 (かんがい・発電)	— (発電)	— (発電)

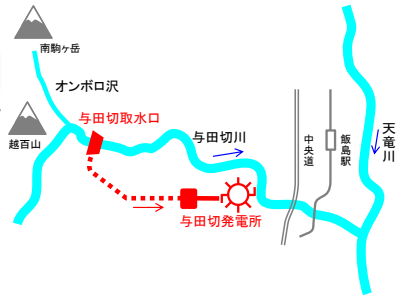


与田切発電所

与田切発電所

大規模改修工事

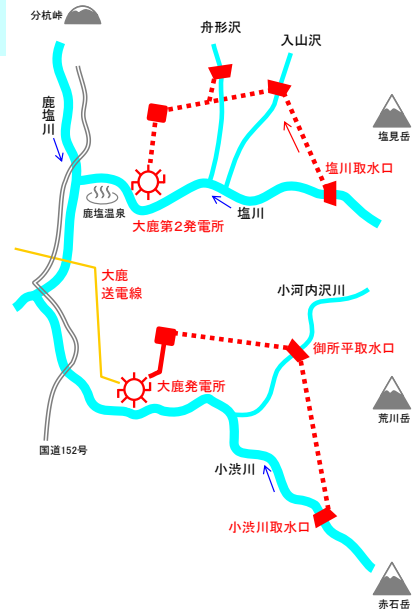
オイルショックにより、石油代替エネルギーとしての中小水力開発が急務となったため、発電のみを目的として建設した県営最初の発電所です。令和4年9月に発電を止め大規模改修を行い、令和6年4月から運転再開の予定です。



大鹿発電所、赤石岳

大鹿発電所

発電のみを目的とした発電所で、小渋川と小河内沢川の2箇所から取水して発電します。また、発電した電気を中部電力(株)に送るため、大鹿村～松川町の間に約17kmの送電線も建設しました。



大鹿第2発電所

大鹿第2発電所

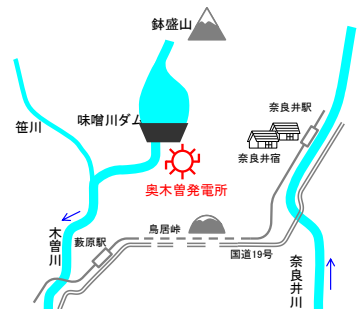
発電のみを目的とした発電所で、塩川、入山沢と舟形沢から取水して発電します。FRPM管や高さ261mの垂直な地下トンネルを用いた水圧管が特徴です。



味噌川ダム、奥木曾発電所

奥木曾発電所

味噌川ダム(治水、維持流量、都市用水)の直下に建設した発電所で、ダムからの利水放流を利用して発電を行います。少ない水も効率よく利用するため、二輪の水車を設置しています。



高遠(高遠さくら)	ダ ム	高 遠	美 和	小 渋	味 噌 川
伊那市(高遠町)	所 在 地	伊那市(高遠町)	伊那市(長谷・高遠町)	上伊那郡中川村・下伊那郡松川町	木曾郡木祖村
H29.4.1	竣 工	S33	S34	S44	H8
ダム式	形 式	コンクリート重力式	コンクリート重力式	コンクリートアーチ式	中央遮水型ロックフィル
199 kW	堤 高	30.9 m	69.1 m	105.0 m	140.0 m
1,249 kWh	堤 頂 長	76.1 m	367.5 m	293.3 m	446.9 m
1.10 m³/s	総 貯 水 量	2,310 千m³	29,952 千m³	58,000 千m³	61,000 千m³
230 m	有 効 貯 水 量	500 千m³	20,745 千m³	37,100 千m³	55,000 千m³
1 台	用 途	発電・かんがい	治水・かんがい・発電	治水・かんがい・発電	治水・上水道・工業用水・発電
横軸フランシス	管 理 者	長野県企業局	国土交通省	国土交通省	水資源機構
ー (維持流量・発電)	関 連 事 業	三峰川総合開発事業 (かんがい・発電)	三峰川総合開発事業 (治水・かんがい・発電)	小渋川総合開発事業 (治水・かんがい・発電)	木曾川水系水資源開発基本計画 (治水・上水道・工業用水・発電)